

ホケンダイつきいちゼミ 2026年8月号

理学療法学科
生体機能学研究室

教授 李 相潤



公立大学法人 AOMORI UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE

青森県立保健大学



ホケンダイつきいちゼミ (2026年8月号)

Q. 研究テーマを教えてください。

A. 骨(形態・代謝)と酸化ストレスを中心に、身体組成や身体活動に関わる健康課題について研究しています。特に、若年女性や中高齢者を対象に、予防医学の観点から、健康課題の解決や健康増進につながるアプローチを追究しています。

Q. お名前と今の仕事の内容を教えてください。

A. 青森県立保健大学理学療法学科の李相潤(リ サンユン)です。
学部では、解剖学、運動器解剖学、人体構造学などの基礎系専門科目を主に担当し、理学療法士や研究者の育成に力を注いでいます。
大学院では、理学療法基礎科学特論・演習、理学療法健康スポーツ科学特論・演習、人体機能解剖学特論など、より高度な専門科目を担当しています。
研究面では、基礎研究で得られた知見を実際の医療や健康支援の現場へ還元する「トランスレーショナルリサーチ」を軸に、基礎から臨床までをつなぐ幅広い研究に取り組んでいます。

ホケンダイつきいちゼミ (2026年8月号)

Q. 研究室名とリーダーの先生を教えてください。

A. 研究室名は、「生体機能学研究室」で、私、李が研究室を運営しています。

Q. どうしてその研究をしようと思ったのですか。

A. 骨の代謝や形態、酸化ストレス、身体組成など、身体の中で起こるさまざまな変化に関心がありました。特に、臨床や日常生活の中で生じる「なぜこのような変化が起こるのか」という疑問を、表面的な現象だけでなく、その背景にある仕組みから明らかにしたいと考えたことが研究を始めたきっかけです。そこで、臨床で生まれた疑問を基礎研究によって掘り下げ、得られた知見を再び臨床研究へとつなげる、基礎から臨床まで一貫した研究に取り組んでいます。このようなアプローチによって、臨床現場で抱く疑問をより深く、科学的に明らかにし、将来的には予防や治療、健康増進に役立つ成果につなげていきたいと考えています。

ホケンダイつきいちゼミ (2026年8月号)

Q. それはどんな研究ですか。

A. 主に、骨の代謝や形態、身体組成、酸化ストレス、身体活動などに着目し、健康状態や加齢に伴って身体がどのように変化するかを明らかにする研究です。例えば、若年女性や中高齢者を対象に、骨密度や筋量、脂肪量、身体活動量などを調べ、それらが骨の健康や身体機能にどのような影響を与えるのかを検討しています。また、必要に応じて基礎実験も行い、身体の中で起きている変化のメカニズムを詳しく調べています。このように、基礎研究と臨床研究の両面から検討することで、骨粗鬆症などの予防や健康維持・増進につながる方法を見いだすことを目指しています。

Q. どんな成果が得られていますか。

A. 骨の健康には、身体組成や身体活動、酸化ストレスなど、さまざまな要因が関係していることが分かってきました。これらの知見を、骨粗鬆症の予防や健康増進につなげることを目指しています。

ホケンダイつきいちゼミ (2026年8月号)

Q. この結果をどんな人にどのように活用たいですか。

A. 若年女性や中高齢者をはじめ、多くの方の骨の健康維持や健康増進に活用したいと考えています。また、得られた成果を予防や運動指導など、実際の医療・健康支援の現場に役立てていきたいです。

Q. 皆さんにメッセージをお願いします。

A. 当研究室では、身体組成や骨密度を中心とした予防医学について、「トランスレーショナルリサーチ」を軸に、基礎から臨床まで幅広く研究・教育を行っています。大学院では、臨床現場で活躍している方々も学んでおり、日々の現場で感じた疑問を研究テーマとして掘り下げ、専門性をさらに高めることができます。皆さんが抱いている「なぜだろう？」という疑問を科学的に明らかにし、研究を通してスキルアップを支援することも、私たちの研究室の大切な役割です。少しでも興味を持っていただけたら、ぜひ気軽にご連絡ください。お待ちしております。

ホケンダイつきいちゼミ (2026年8月号)

Q. 最後に、研究のことをもっと知りたい！大学院のことをもっと知りたい！場合は、どちらにコンタクトすればいいですか？

基礎研究・実用技術領域

生体機能学研究室 李相潤

メールアドレス：leesu@ms.auhw.ac.jp よろしくお願いします！